

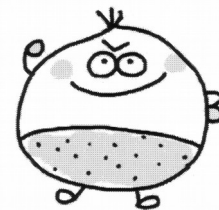
HDM推進会（第 15回）／ごみゼロネット推進会（第 37回）議事録

開催日： 2011年(H23年)3月 14日(月) 10:00～11:50

場所： ウエスト

出席者： 大橋、杉本、平林、加賀谷、藤原、佐藤かずお、桐生（作成）

議題：



1. 行政との折衝状況報告（大橋）

行政（鈴木KH、中福 C、武内 T）は市民側の参加者数に圧力を感じてフルメンバーでの会合を嫌い、大橋氏との単独会合や意見交換を望むので、前回以後にも何回かの接触がある。その場で得た行政側の考え方を示す。

- (1) 本件は市民が提案した案件なので、市民側から具体策（装置や収集方法の実行計画）を出して欲しい。
- (2) ジャノメ跡地の缶工場で HDM 実証装置(2×5.5m、200 kg / 日)を置く案の検証を行ったが、行政側は「そのスペースでは設置困難」との意見で、「設置可能」とする大橋氏との意見の歩み寄りはなかった。
- (3) 中福Cは「小金井型の生ごみ収集方式」を確立することに意欲を燃やしている。

2. 実証試験の意義確認（全員）

- (1) これは実証試験に名を借りた啓発活動である。（佐藤）
- (2) 生ごみ袋の処理、混入物問題等は久喜宮代等の既に実践実績が豊かな自治体の情報を貰ってくればよい。
- (3) 臭気で拒絶反応が出るのが最大のリスクであることを認識して、計画を遂行することが大切。（全員）

3. 行政へ提案する実行計画の検討

- (1) 行政との次回会合で A 案(2×5.5m、200 kg / 日)、B 案(2×4m、100 kg / 日)、C 案(2×2m、50 kg / 日)の3案を出して、どれがジャノメ現地に設置可能かの合意に到りたい。（大橋）
- (2) 久喜では生ごみと袋を分離する破袋機がうまく稼働しているが、今回は量が少ないので、人力で袋から生ごみを取り出す方式にしたい。（大橋）
- (3) (高架下等を使う提案に対して)C案程度の小型装置であれば、下に車輪をつけて移動式にできる。（桐生）
- (4) 毎日の収集オペレーションに関しては、堆肥工場の責任者の藤氏に協力願うよう相談したい。（平林）……

本案は有望なので、会議終了後に平林、大橋の両氏が藤氏を訪問して相談することとなった。

- (5) 収集方式については小金井で確立している現行方式を起点とし、これから考えて行けばよい。

4. 加藤氏資料の配付と説明（杉本）

加藤氏は本日は別件集会の主宰者であるために本会議を欠席した。加藤氏から次の内容の資料3頁分を託された杉本氏が説明した。資料は啓発部会に出した資料にプラス α した内容である。以下、項目を挙げる。

生ごみの発生抑制／水切り前にすること／生ごみの水切り・乾燥事例／生ごみの保管／消臭方法／水切りバケツの場合／抗酸化バケツ／水切りカラット／生ごみ保管モニター実験（案）／市販生ごみの水切り・保管バケツ等各種一覧表(8件)／市販生ごみ消臭剤一覧表(5件)

以上

行政との次回打合せ： 3月25日（金）10:00～12:00 ジャノメ跡地缶処理工場で現地立会の後、桜並集会所で討議

次回推進会日程は 3/25 の会議後に相談したい。

